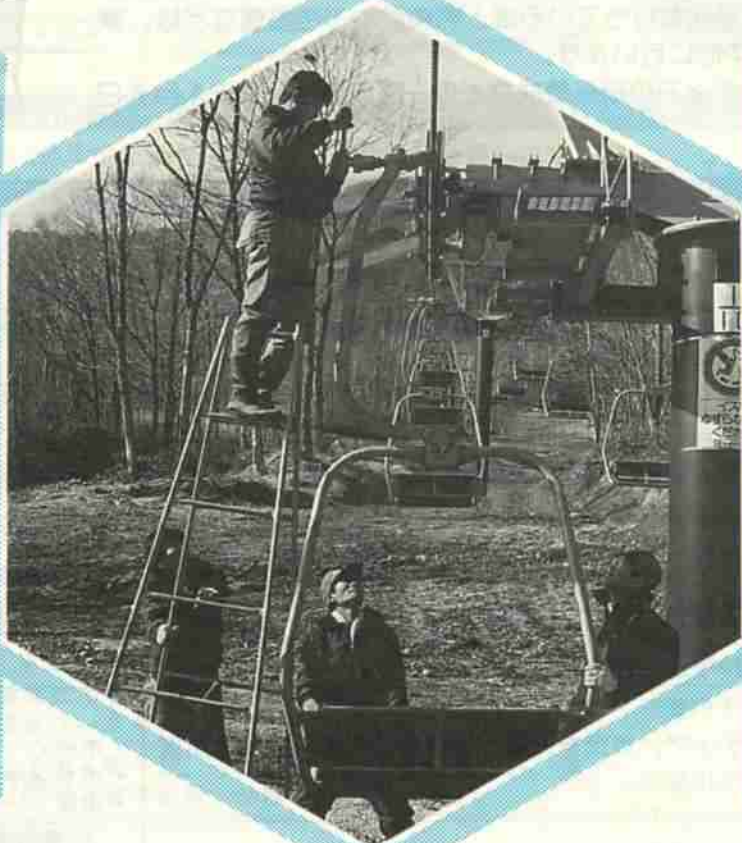


NOBORIBETSU



のぼりべつ

広報

'93
12.1
No.518

来年1月6日オープン

市民の福祉・保健活動の中心となる「しんた21」(総合福祉センター)は、11月27日(土)に保健福祉課、同センター準備室、市社会福祉協議会、各種障害者団体、ボランティア団体と、小規模通所授産所・すずかけ作業所が引っ越しを済ませ、29日(月)からそれぞれ通常業務に入っています。

「しんた21」では、健康増進事業、在宅老人・障害者サービス事業、ホームヘルパーやボランティアの研修養成事業など、市民の福祉と健康に関する事業を行います。また、現在も行っている成人病検診や予防接種などは、新年度から「しんた21」を中心に行います。

ホームヘルパーやボランティアの研修養成などの一部事業は、来年1月6日からスタートします。



事業名と内容	利用対象者	利用室名
健康増進事業 ・コンピューターにオンラインされた体力測定機器で個人の体力診断、運動・栄養処方表やトレーニングメニューを作成し、専任トレーナーの指導でトレーニング機器を使用して健康づくりや体力の維持増進を図ります。 1. 体力測定機器、トレーニング機器の利用方法 ① 申込先 トレーニングルームに申し込む ② 利用時間 平日 9:00~21:00 日曜日 9:00~17:00 ③ 休日 月曜日と国民の祝祭日の翌日 2. 使用料(利用料) ① 体力測定機器 1回 500円 } 回数券 7枚綴 3,000円 ② トレーニング機器 1回 500円 } 12枚綴 5,000円 ③ シャワー 1回 100円 ・体力回復、腰痛、成人病予防等のための運動教室を開催します。 ・ヨガ、エアロビクスダンス、ジャズダンス、大極拳など機器を使用しないで健康づくりや体力の維持増進を図る教室を開催します。	・市民 (トレーニングルームは中学生以上) 平成6年4月から ※平成6年1月~3月までトレーニングルーム等の見学と機器の体験使用を行います。ご希望の方は、次の時間に「しんた21」へお越しください。 午前の部 9:30~11:30 午後の部 14:30~16:30	トレーニングルーム (体力測定機器、トレーニング機器を備え付け) 健康増進室
研修・養成事業 ・ホームヘルパーやボランティア、市民を対象に現任研修や養成講座を開催します。	・ホームヘルパー ・ボランティア ・市民	多目的ホール 研修室
相談事業 ・相談日を定めて、老人や障害者の生活相談、健康相談等を行います。	・障害者や概ね65歳以上の老人	相談室
栄養・調理指導事業 ・手すり付きや上下(昇降)調節のできる調理台、やけどのしない調理台、オープンレンジ等を使用して栄養・調理の教習を行います。	・独居老人、老人世帯や障害者	調理実習室
交流事業 ・陶芸作業を通して障害者と子供達との交流 ・ゲーム等を通して障害児と健常児との交流 ・伝承遊び、伝承料理・文化、山菜・野草の知識、ゲーム等を通して老人、障害者と小・中・高校生やボランティア団体との交流	・障害児・者 ・老人 ・児童 ・市民	生きがい工作室 ふれあいキッドルーム 多目的ホール 調理実習室
機能回復訓練事業 ・身体に障害のある方を対象に、理学療法士や保健婦のアドバイスをうけて、訓練機器を使用し訓練を行います。(医療行為をするものではありません)	・脳卒中後遺症者 ・パーキンソン氏病等による難病者 ・身体障害者	機能回復訓練室
小規模通所授産事業 ・知的障害児・者を対象に創作的軽作業を通して社会適応訓練を行い、幌別町7丁目のすずかけ作業所が、移転して活動を行います。	・知的障害児・者	創作軽作業室

※在宅老人・障害者サービス事業の内容は、11月15日号広報をご覧ください。

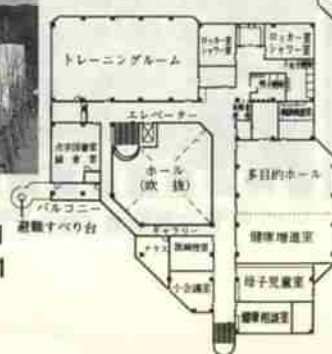


事業名と内容	利用対象者	利用室名
成人病検診 ・成人を対象に基本健康診査(ミニドック検診)を行います。(検診種目は血液、血圧、尿、心電図、レントゲンです) ・成人を対象に健康診査を行います。(診断種目は、胃ガン、乳ガン、肺ガン、子宮ガンです)	・40歳以上 (乳ガン・子宮ガンは30歳以上)	多目的ホール 検診検査室 健康相談室
1歳6ヵ月児健康診査 ・医師や歯科医師による診察やブラッシング指導、保健婦による育児相談、栄養相談、発達相談などを行います。	・1歳6ヵ月～ 1歳8ヵ月児	多目的ホール 母子児童室 健康相談室 検診検査室
7ヵ月児相談 ・保健婦による発育・発達、離乳食、予防接種、育児全般の相談を行います。	・生後7ヵ月児	母子児童室 健康相談室
3ヵ月児検診 ・医師による診察、離乳食、予防接種、育児全般の相談を行います。	・生後3ヵ月児	母子児童室 多目的ホール 検診検査室
予防接種 ・3種混合(ジフテリア、破傷風、百日せき)、ポリオ、ツ反、日本脳炎、インフルエンザの予防接種を行います。	・3ヵ月児以上	多目的ホール 健康相談室 検診検査室
フッ素塗布事業 ・歯科衛生士によるフッ素を6ヵ月ごとに歯に塗布を行います。	・1歳6ヵ月～7歳未満児	多目的ホール
健康相談 ・医師、保健婦による血圧測定、血糖測定、健康に関する一般的な相談を行います。	・40歳以上	健康相談室
健康教育 ・保健婦による成人病予防、ガン予防、食生活のあり方、健康増進等に関する健康教育、学習会を開催します。	・40歳以上	多目的ホール 調理実習室
マタニティサークル(母親教室) ・医師、歯科医師の講演、妊婦体操、グループワーク	・妊婦	母子児童室 多目的ホール 調理実習室
3歳児検診 ・保健所の主管による医師、歯科医師の診察、育児、栄養、発達相談を行います。	・3歳児～ 4歳児未満	多目的ホール 母子児童室 健康相談室
ホームヘルプサービス事業 ・寝たきりや独居老人宅へホームヘルパーが訪問し、在宅援護を推進します。保健婦やデイサービス職員と連携したチームケア方式で行います。	・寝たきり老人、独居老人、身体障害者	訪問サービスで行います

今年度中の検診・予防接種などの日程は、広報紙や健康カレンダーなどでお知らせのとおり行います。来年度からの検診や相談などは、「しんた21」を中心に行います。詳しい日程などは、そのつどお知らせします。



2階平面図



1階平面図



〒059
登別市片倉町6丁目9番地1
☎01100 FAX☎0111

しんた21

交流を深め合いましょう

姉妹都市 白石市で祝賀会



昭和58年宮城県白石市と締結した姉妹都市提携は、今年で10周年を迎えました。登別と白石両市のゆかりは、明治二年旧仙台藩支範白石城主片倉家一門が、登別の開拓の礎を築いたことに始まります。

この10年の節目を記念して、8月21日、登別市民会館で登別市側の祝賀会を、両市の市民約400人が出席してお祝いしましたが、11月12日、白石市側の記念祝賀会が晩秋の白石市で開かれました。

今月号は、白石市で開かれた祝賀会や物産展、友好4市親善水泳大会の様子をお知らせします。(8月1日、9月1日号広報参照)

祝賀会

白石蔵王パレスホテルで開かれた記念祝賀会は、登別市から市長をはじめ各関係者と、一般公募した市民ツアー団三十五名を含む約百人が参加しました。

祝賀会では、川井白石市長が「互いに同じ立場でこれから先も姉妹都市提携を続けて行こう」、上野登別市長が「今年は大変な冷害だったが、力強い農業を育てるために頑張つて欲しい。今後両市の交流が深まり互いの市がさらに発展をするように」とあいさつしました。十周年を記念して登別市と同市議会は、木彫りの「鬼の面」を白石市と同市議会に贈呈。また、白石市の伝統芸能である大町太神楽保存会による「神楽」、登別温泉の郷土芸能「熊舞」がそれぞれ披露され、鏡割りの後、祝宴に入りました。アトラクションでは、陸上自衛隊幌別駐屯地隊員が「北海自衛太鼓」を披露。勇壮な太鼓の音を聴きながら、さらなる友好と親善を誓い合いました。



白石市民歓迎の拍手の中入場 ← 1



木彫り「鬼の面」を贈呈 ← 4



上野登別市長 ← 3



川井白石市長 ← 2



軽快なバチさばき「北海自衛太鼓」 ← 7



白石の地酒「蔵王」で鏡割り ← 6



神楽「四方堅の舞」の披露 ← 5

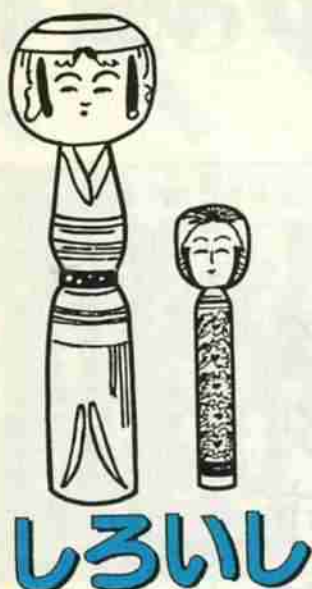
さらなる友好親善と

物産展

十一月十三日・十四日の二日間、白石と登別両市の物産展を白石市民会館で開きました。

白石市と相互に開催している姉妹都市物産交流事業は、登別市側は刈田神社祭典に行い、白石市側では農業祭りに合わせて昭和五十九年から行っています。今年、天候不順による米の凶作で農業祭りは中止。小雨の降る中、両市の関係者によるテープカットの後、熊舞が披露。ユーモラスな踊りに訪れた白石市の皆さんは、盛んな拍手を送っていました。

会場内には登別市から運び込まれたタラコや筋子、新巻さけなどの海産物のほか、ラーメンやジャガイモ・カボチャなどがずらりと並びました。また、北海道の味「石狩鍋(さけ汁)」を来場者にサーブ。三百人分を用意しましたが、十五分で鍋がカラになる大人気でした。あいにくの天気にもかかわらず、二日間大勢の白石市民でにぎわいました。



2日間白石市民でにぎわった物産展会場 ←10

盛んな拍手を受ける「熊舞」 ←9 雨の降る中、両市の関係者によるテープカット ←8

友好四市

水泳競技大会

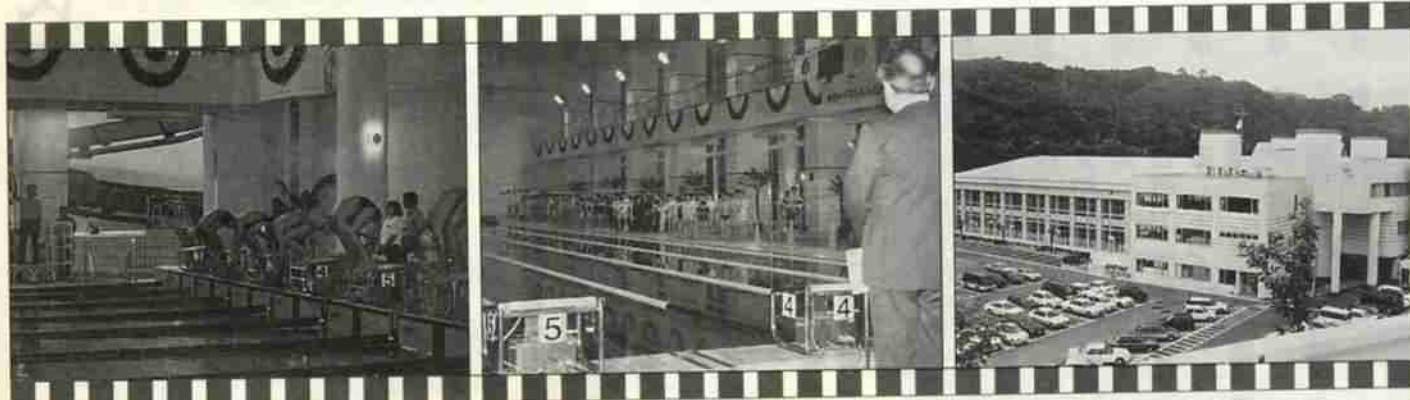
白石市内から車で約十分の山あい、日本水泳連盟公認の五十メートルの温水プールと岩風呂やトレーニングルームなど健康づくりのための施設「スパッシュランドしろいし」があります。

友好四市親善水泳競技大会は、白石市が縁のある札幌市白石区、神奈川県海老名市と、登別・白石市の小・中学生が参加して、「スパッシュランドしろいし」がオープンした昨年から行われています。

十一月十三日、開催された大会には、四市から約八十名の小・中学生が参加。登別市からは、市内小・中学生男女十八名が、応援の各市関係者や父母の前で、日ごろの練習の成果を発揮し、力強く泳いでいました。

参加した選手の皆さんの宿泊は、ホームステイで、水泳を通してホームステイ先の家族とも友好を深めてきました。

登別・白石姉妹都市提携十周年記念事業は、十一月十二日から十四日までの間に白石市で開かれた三つの事業で、交流事業を締めくくりました。



中学男子200mリレーでは、登別市チームが1着でゴール ←13

4市約80名の小・中学生が参加 ←12 会場の「スパッシュランドしろいし」 ←11

市民表彰者

十一月三日、秋晴れとなった文化の日に、市民会館で平成五年度の市功労者・市民表彰式が行われました。この表彰式は、永年にわたって私たちのまち登別市の行政や社会福祉に貢献した方、また模範となる行いをされた方の功績をたたえるものです。

本年度の受賞者は、市功労者四人、市民表彰者は自治貢献一人、社会貢献二十一人、教育文化貢献二十人、善行一団体の合計四十三人（団体）です。表彰者は次の方々です。

登別市功労者



東島 榮一さん(88)

幌別町八丁目十二番地
 永年にわたり、幌別村並びに幌別町議会議員として地方自治の振興に尽力され、今日の市政発展に寄与されました。



秋吉 正男さん(76)

登別温泉町六十八番地
 永年にわたり、登別地区保護司として社会福祉の振興に尽力され、市政の発展に寄与されました。



坂井 晴一さん(77)

登別温泉町五十番地
 永年にわたり、登別市納税貯蓄組合連合会役員として納税思想の高揚に尽力され、市政の発展に寄与されました。



高橋 利市さん(88)

登別東町一丁目二番地二
 永年にわたり、登別市納税貯蓄組合連合会役員として納税思想の高揚に尽力され、市政の発展に寄与されました。

登別市民表彰

自治貢献表彰

多年にわたり、町内会長として地方自治の振興に貢献されました。

赤間 康夫さん(73)

中央町一丁目五番地八

社会貢献表彰

多年にわたり、登別市青少年補導委員として青少年の非行防止並びに青少年の健全育成に貢献されました。

長尾 学さん(65)

登別本町一丁目二十番地六

多年にわたり、登別市国民健康保険運営協議会委員として国民健康保険の運営に貢献するとともに、学校歯科医並びに母子保健業務歯科医として児童生徒と母子の健康増進に貢献されました。

堅田 勇さん(56)

登別東町二丁目三十番地一

多年にわたり、登別市国民健康保険運営協議会委員として国民健康保険の運営に貢献されました。

田中 ミネさん(71)

登別東町四丁目四十四番地十

多年にわたり、学校歯科医並びに母子保健業務歯科医として児童生徒と母子の健康増進に貢献されました。

浅沼 晃明さん(49)

登別町二丁目二十三番地四



多年にわたり、学校薬剤師として児童生徒の健康管理並びに学校環境衛生の向上に貢献されました。

遠藤 博道さん(45)

若草町四丁目二十二番地一

多年にわたり、登別市交通安全指導員として交通安全思想の啓発並びに交通事故防止に貢献されました。

橋場 留雄さん(61)

美園町四丁目九番地三

渡辺 正光さん(56)

美園町二丁目八番地十四

香川 勲さん(57)

登別東町二丁目二十番地六

足立 信子さん(44)

新生町一丁目十八番地六

三浦 洋子さん(45)

新生町一丁目十五番地一

伊藤 節子さん(46)

新生町一丁目十五番地十五

渡辺 榮子さん(55)

美園町二丁目八番地十四

泉野 栄子さん(45)

若山町三丁目三十三番地一

平成5年度 登別市功勞者

多年にわたり登別市スキーバート
ロール赤十字奉仕団員として負傷
者の救護並びにスキー場の安全確
保に貢献されました。

中家 善 孝さん(37)

新生町二丁目五番地七

藤江 勝 美さん(45)

柏木町一丁目二十八番地一

本吉 文 雄さん(58)

登別東町五丁目三十九番地五

多年にわたり温泉施設管理業務
従業員として精励されるところにも
後進の指導育成に貢献されました。

村谷 秀 次さん(60)

中登別町百六十九番地十二



平成5年度登別市功勞者表彰式

昭七さん(60)

中登別町百六十九番地十七

多年にわたり窯業品質製造管理
業務従業員として精励されるところ
にも後進の指導育成に貢献されま
した。

富澤 寛さん(44)

千歳町四丁目五番地五十八

多年にわたり建築板金技能士と
して精励されるところにも職業訓練
指導員として後継者の育成に貢献
されました。

佐々木 憲 司さん(44)

登別東町四丁目九番地二

多年にわたり塗装技能士として
精励されるところにも職業訓練指導
員として後継者の育成に貢献され
ました。

後藤 保 雄さん(49)

片倉町四丁目十五番地三

教育文化貢献表彰

多年にわたり登別市社会教育委
員として社会教育活動の推進に貢
献されました。

門山 きぬさん(63)

新生町一丁目十番地七

多年にわたり登別市図書館協議
会委員として図書館の運営に貢献
するところにも文化団体役員として
地域文化の向上に貢献されました。

黒澤 友 義さん(68)

登別町六丁目一番地一

多年にわたり育団体役員並び
に指導者として体育の振興に貢献
されました。

吉田 淳 一さん(64)

登別東町四丁目二十九番地九

千葉 吉 明さん(68)

桜木町二丁目九番地四

安食 孝さん(64)

常盤町三丁目四十五番地三十七

星 惣 一さん(58)

片倉町六丁目七番地三

阿部 隆 司さん(58)

片倉町六丁目五番地一

成田 元さん(47)

美園町五丁目二十番地十五

川村 博 美さん(39)

千歳町六丁目五十八番地二

兼田 謙 二さん(39)

桜木町二丁目一番地

多年にわたり体育団体役員並び
にスポーツ少年団指導者として体
育の振興に貢献されました。

伊藤 吉 司さん(57)

富士町六丁目六番地一

鳥居 則 康さん(46)

千歳町四丁目七番地二

橋 淑 子さん(59)

中央町一丁目五番地九

三上 泰 裕さん(41)

中央町六丁目三番地一

大山 直 人さん(46)

富士町七丁目五十一番地二

羽田 克 美さん(43)

片倉町四丁目二十四番地五

鎌田 茂 明さん(42)

千歳町四丁目二番地



平成5年度登別市功勞者表彰式

小森 仁さん(35)

中央町七丁目三十八番地一

田中 和 明さん(41)

常盤町一丁目四番地三

伊藤 博 司さん(41)

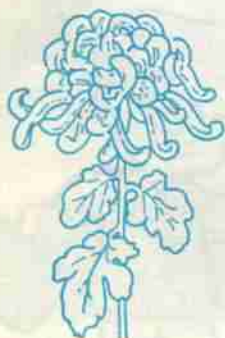
千歳町四丁目五番地十八

善行表彰

多年にわたり視力障害者のため
点字図書作成など点訳奉仕活動
に尽力されました。

登別市点訳赤十字奉仕団

幌別町三丁目十七番地一



登別市職員給与の状況

市職員の給与は、その職務と責任に応じて、国や他の地方公共団体、民間企業従業員の給与などを考えだうえで、市議会にはかり「登別市職員の給与に関する条例」によって決められています。今月号は支給状況のあらましをお知らせします。

人件費の決算

人件費とは、一般職、特別職（市長、助役、収入役、市議会議員、各種委員、その他嘱託職員）の給与、報酬、退職手当、共済費などを含みます。

平成四年度一般会計の歳出決算額は一八億四千八十万二千円です。そのうち、人件費は四十五億六千三百八万五千円で、構成比は二十四・二パーセントとなっています。

なお、市民千人当たりの職員数は九・一人で道内三十二市中の低位となっています。

初任給と平均給料月額など

一般行政職の初任給と経験年数別平均給料月額などは、表①のとおりとなっています。

職員手当の状況

◎期末・勤勉手当……民間のホー

ナスに相当するものです。国と同じ年間五・四五か月分です。

◎扶養手当など……扶養手当は扶養家族のいる職員に毎月支給し、配偶者一万六千円、配偶者以外の二人目まで五千五百円となっています。住居手当は、毎月支給し、持家が三千五百円、アパートなど借家の支給限度額は二万六千円となっています。

退職手当

退職手当は、退職時の給料月額に、退職の理由別に定められた表②の支給率を乗じて支給されます。内容は表②のとおりです。

市長の給料月額など

市長などの給料月額と、市議会議員などの報酬月額は、表③のとおりです。

なお、年間の期末手当は、市長、議長なども支給率は五・四五か月分となっています。

表① 初任給と平均給料月額など

平均給料月額及び平均年齢		区分	初任給	経験年数別平均給料月額		
平均給料月額	平均年齢			10年～14年	15年～19年	20年～24年
307,600円	41.6歳	大学卒	161,400円	264,300円	307,300円	365,000円
		高校卒	131,900円	225,400円	270,400円	312,200円

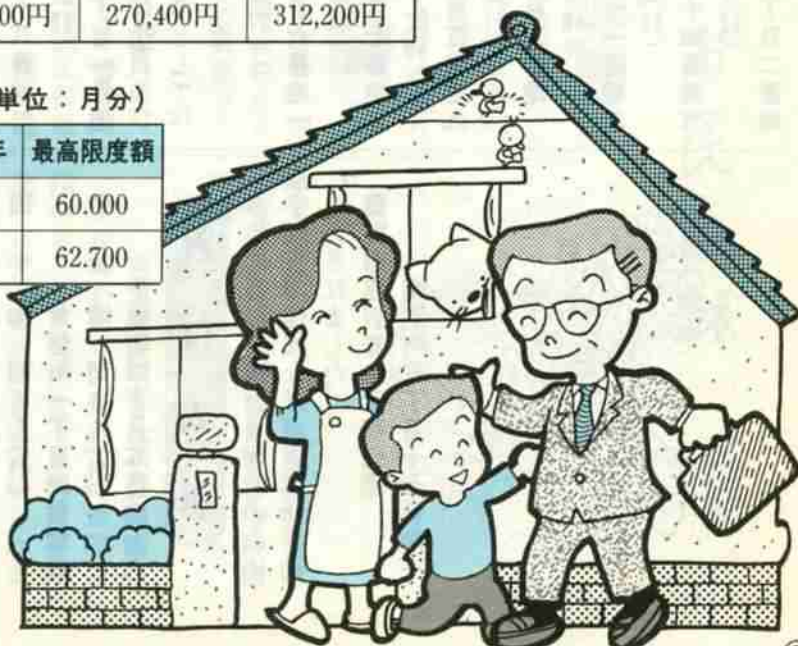
表② 退職手当

(単位：月分)

区分	勤続20年	勤続25年	勤続35年	最高限度額
自己都合退職	21.000	33.750	47.500	60.000
勲奨・定年退職	28.875	44.550	62.700	62.700

表③ 市長の給料月額など

区分	給料月額	区分	報酬月額
市長	870,000円	議長	370,000円
助役	700,000円	副議長	330,000円
収入役	630,000円	議員	300,000円



国際先住民年特別講演会

今年、国連で定めた「国際先住民年」の年です。

世界各地の先住民が共通に抱えている人権・環境・開発・教育等の諸問題を国際的に協力して、共に考え、歩んでいく年としています。

市は、アイヌ民族の歴史や文化について広く市民の皆様理解を深めてもらうため、「国際先住民年特別講演会」を開きました。

今月号は、その講演会の内容についてをお知らせします。

十一月一日、登別市民会館で開催した「国際先住民年特別講演会」には、あいにくの天候にもかかわらず小学生からお年寄りまで、多くの市民の方々が参加しました。



古式舞踊の「フンベ・リムセ」(鯨踊り)

まず、講演に先立ち、北海道ウタリ協会登別支部の会員の皆さんによりアイヌ民族伝統の古式舞踊「フンベ・リムセ」(鯨踊り)、「ト・イソウ」(海の波)の三曲が初めて披露されました。

「私たちの踊りを多くの市民に見ていただきたい」と、登別支部のメンバーは、この日のためにウタリ協会札幌支部などの応援やビデオなどで練習を重ねてきました。

目の前で繰り広げられる伝統舞踊の熱演に、訪れた市民から盛んな拍手が送られました。

続いて講演会では、北海道教育大学岩見沢校助教授相内俊一氏を講師に、「先住民の権利とは何だろうか」として私たちに今できることは?—国際先住民年の意義とこれから—と題して講演が行われました。

「先住民」と呼ばれる人々とは、どのような人のことなのか、という点から話が始まり、その後国連はこれまでどのように先住民の



相内俊一講師

権利について考え、活動してきたのかなど「国際先住民年」が定められた経緯が話されました。

また、日本における先住民である「アイヌ民族」と、我が国政府との関係について、どのように国が取り組んできたのかなど、問題が提起されました。

最後に、アメリカやカナダにおける先住民への様々な取り組みが紹介され、国際先住民年とこれから十年に私たちに何ができるかということ、日本においても、アイヌ民族が自分たち民族にかか

わる政策に参加できるシステムを作る。

教育の面では、例えば、課外活動でアイヌ語やアイヌ舞踊を学べる機会を積極的に用意するなど、アイヌ民族自身のためと、非アイヌ民族のための教育をアイヌ民族によって行うシステムを作ること。

以上のような色々な取り組みが可能だということを、私たちはしっかり理解し、アイヌ民族とアイヌ民族以外の人々が互いのよさを認め、違いを認め、それぞれの文化や生き方を尊重しあう、新しい社会の仕組みを作っていくことと行動を開始することが、「国際先住民年」によって得られる一番大切なことなのだと講演があり、参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

今年の国際先住民年を契機として、市民のアイヌ民族への理解と文化に対する関心が、一層深められることを期待します。



会場内では、民族衣装を展示



読書で心を耕そう!!

図書館は、情報の泉

読書は、人の心にゆとりや安らぎを与えたり、ときには、読む人に強い感銘を与え、その人の生き方を決定づける教師の役割をしてくれることもあります。

また、同じ一冊の本を読んでも、読んだときの年齢やそのときの感情などによって、受ける印象が異なることもあるでしょう。読書にはそんな奥深さがあります。皆さん、図書館へ出かけて、本に触れてみませんか。



豊富な絵本が皆さんをお待ちしています

図書館の主な仕事は、本の貸し出しです。少しでも多くの方が本を借りられるように、市内を巡回する移動図書館や老人大学出前文庫を行っています。市立図書館には約九万二千冊の本があり、年間に約十五万六千冊が借りられています。



たくさんのサークルが図書館で活動しています

また、皆さんが調べものをするときに、必要な本や資料についての情報を提供することも、図書館の大切な仕事です。そのほか図書館では、子どもビデオ映画会や絵本の読みきかせ会、読書サークルなどの活動も行っています。市内小中学校にある学校図書館は、学習活用や子どもたちに本を貸し出しています。また、子ども



切絵はうまくできたかな



お母さんと一緒に絵本を見る幼児

たちが読書に関心を持ってくれるように、読書感想文コンクールも行っています。
※希望する本が、図書館にないときは取り寄せることもできますので、市立図書館(☎4324)へ申し出てください。

幌別川の野鳥たち



僕はオオハクチョウ。白鳥と言われるのが普通。幌別川のなんてったつてアイドルさ!

クアウ・クアウと大きな鳴き声はよく響くでしょ。僕の羽根は、幼鳥のころ灰色で、三年たつと純白になるんだ。僕が長い首を真つすくにして、S字形の時は甘えたり、リラックスしているときなんだ。今年、いつもの年より早い十月下旬に、シベリアから一家六羽で、まず幌別川のダムに一番のり。早く着いた大家族が幌別川をトリ仕切れるからね。僕達がここを気に入っているのは、町の人ガパンをくれたり、好物のヨシがいつばいあること。そして、自然がまだまだ残っている川だからなんだ。ここで未来のお嫁さんを見つけられたらいいんだけどなあ。



鳥名 オオハクチョウ

観察時期 10月下旬から3月下旬まで

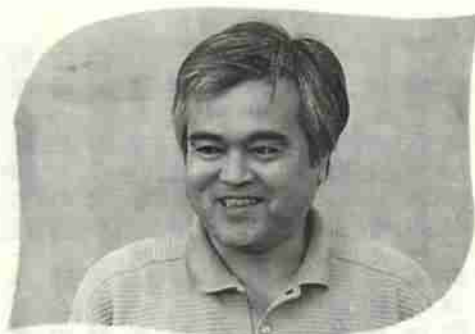
(文・写真提供 日本野鳥の会)

会員ヨシキリの会

▽問い合わせ 伴野さん(☎7515)

友達の輪

前号の伊達豊子さんからのご紹介で、上登別町にお住まいの宇都宮敬博さんを訪ねました。
宇都宮さんは、父親の陶芸家故誠志さんから引き継いだ権兵衛窯



宇都宮 敬博さん(41歳)

上登別町在住

で、物を創っています。そこで今回は、焼き物の魅力について伺いました。

「五、六年前に父親の陶芸を手伝ったのが、この道に入ったきっかけです。陶芸は、独学でおぼえたよなものですね。結局、父は「おまえは、おまえのやり方でやれ」と言っていて、うわ葉の調合など重要なことは、何も教えずに死んでしまいましたからね。」

焼き物の土は、ほとんど本州から買ったものです。道内の土を焼き物に使えるようにするには、二年程寝かせなければならず、コストが合わないので使っていません。創作は、主に食器を創ります。食器が好きなんです。先に自分の食べたい料理をイメージしてから創りますね。ジャガイモが好物なんです。それを食べる時に器に入れることで、もっと美味しく、楽しく、幸せと感じられるように

と作品を創るんです。」

「これがその器です」と言っていて、宇都宮さんが見せてくれた棚の中には、ふかしたジャガイモが十個程入りそうな大鉢が、渦巻き模様で飾られて黒褐色に輝いていました。隣には、刺し身を食べるために創ったという厚さ三センチメートルの大きな長方形の皿がありました。なるほど、そのお皿も刺し身にあいそうな趣のある素晴らしい作品でした。

「今後は、生と死についての想いを作品で表現したいと思っています。例えば、縄文式土器の渦巻き模様には、生と死が込められていて、右回りが生で、その反対が死。染色体や植物のつるなど、生きているものは右回りですよ。」

これから陶芸をやる人のために、何か一言アドバイスをしてください。「今の若い人達は、三か月くらい

でコーヒーカップなどを上手に創るんですが、大切なことはそこでただ物を創ることに酔ってしまわないで、作品の中に自分の存在感を込めることですね。

皆さん最初の頃は、オドオドして創るんですけど、そんなときに良い作品ができませんね。」

なるほど陶芸は芸術であるゆえんですね。

陶芸について柔らかな口調で語る宇都宮さんにお会いして、昔ながらの職人と現代を生きる陶芸家が、うまくミックスされているような印象を持ちました。

ちなみに、私は淡いピンク色に光るコスモという皿で、イカソウメンを食べてみたい。

今後、ますますの活躍を期待します。

▲市民リポーター 加藤民雄▼
次回は、新生町にお住まいの山下智美さんです。

となりまち

ほっとライン

室蘭市

白亜の灯台、地球岬で

1994年の幕開けを



夏の観光ですっかり有名になった地球岬ですが、冬景色にたまたむ白亜の灯台も、また魅力的。

1年の夜明け、元旦。水平線のかなたからゆつくりと上がってくる太陽に、これから始まる年への願いと祈りを込めて、1994年の幕開けを、地球岬で迎えてみませんか。

なお、混雑防止のため交通規制が行われますので、注意してください。

このほか、イタンキ浜、マスイチ浜も、初日の出の見どころで、当日は3カ所とも地元町内会などによるホットミルクや甘酒のサービスが行われます。

▷問い合わせ 観光振興室(☎0111)

伊達市



日本古来の遊びで友情の輪を広げよう

初春に楽しむ少年の集い

新春にふさわしい百人一首や、もちつき、昔の遊具を使つての遊びなどを体験しながら、新たな友情の輪を広げませんか。

市立胆振青年の家では、西胆振管内の小学校5年生以上、中学生までのみなさんを対象に、「初春に楽しむ少年の集い」を開きます。冬休みの楽しい思い出づくりに、ぜひご参加ください。

▷日時 平成6年1月7日(金)午前10時から8日(土)午後2時まで(1泊2日)

▷会場 市立胆振青年の家

▷定員 80名(先着順)

▷費用 2,500円(食事代、保険料)

▷問い合わせ 伊達市立胆振青年の家

(☎0142②3331)

郷土史点描

登別郷土文化研究会 宮武紳一

43

登別の開拓と

白石との関わり

その4



明治3年頃の入植屋敷図

片倉家十二代景範・家老本沢直養ら主従が、厳冬の中で支配地幌別郡の拝領業務を終えて無事白石に帰ったものの、肝心の北海道移住家臣団の取りまとめが遅々として進んでいない状態であった。

藩祖片倉景綱創建の傑山寺に八百人余の家臣を召集し白熱した討議の中で、移住盟約者六百二十四人の賛成で決定したものの「父祖伝来の墳墓の土地・屋敷を捨てて渡道するなど考えられない」とする移住反対派の勢力も強くなりその数も増加傾向にあったのである。移住の具体的決定のみられない状況に業を煮やした政府側も「移住決心者もぐずぐずしていると異論に負け、生活もますます困窮し移住できないので、嚴重に取り調べ移住計画を実施せよ」と移住の督促、移住の強制を求めてきた。調査の結果、移住者三百七十七戸、帰農者二百四十七戸、その他出奔社、未決定者など複雑な状況

の中で移住は実施される。残留組の帰農者は武士の身分を剝奪された、一般農民なので「姓を廃し、帯刀を許さず、武士の姿をしてはならぬ。村役人(百姓)の命令に従い勿論旧主君との主従関係はない」などの命令も相次いで出された。

このような中で第一回の移住が明治三年(一八七〇)六月二十五日、二十一戸六十七人、職人十三人が松島湾の寒風澤から帆船鳳凰丸で出帆、七月一日室蘭村(元室蘭)に上陸し幌別に到着した。

移住者は、早速幌別村(幌別町)に七十五坪、鶯別村に三十坪の草造長屋を建て共同生活をしながら、幌別村は来馬川で東西の来馬に分け、一戸五千坪に区画し本澤直養外十四戸、鶯別村に須田弥平左衛門外五戸が移住し開墾に従事する。十二代の君主邦憲公も六月二十二日仙台屋敷を出発、七月二十三日幌別に到着。幌別郡と増支配地とった東部室蘭郡を視察し、二

十三日間滞在して、八月十五日帰国している(奥羽盛衰見聞誌)。

第二回移住は明治四年三月、四十五戸百七十七人・職人十五人が石浜港から汽船龍丸に乗船し九日出発、十二日碧龍田村(ベケレオタ・室蘭市陣屋町)に上陸した。

彼らの住居は鶯別村に小片五郎右衛門外十戸三十四名、富岸村明珍清太夫外二戸七名、幌別村来馬・浜(幌別町)・小平河岸(片倉町)に斎藤良知外二十六戸百二十五名、蘭法華(富浦町)佐野源蔵外三戸十一名らが分住し開拓することになった(日野愛憲著片倉家北海道移住開拓顛末)。

それにしても、第三回移住予定百五十六戸六百十二人は、第二回出発後の三月十七日開拓使の貫属(直属)となり、旧家老佐藤孝郷に引率され、我が国最初の太平洋横断に成功した旧徳川幕府の咸臨丸に乗船、途中木古内沖で座礁、第二班の庚午函館から乗船し

小樽に上陸して札幌郡白石村・手稲村に入植した。片倉家臣団は、幌別郡と白石・手稲村に分離移住となったのである。

因に、有珠郡に移住した伊達邦成も開拓使貫属として札幌付近の移住を勧告されたが、家老田村頭允は「伊達家は主君が家族をあげて旧臣を従え、君臣ともに移住の決意である。今般申し出の実施は、誠に恥ずかしい事なので武門の面目にかけて主従と共にしたい」と丁重に断り貫属の資金援助と蛇田郡の増支配を受けていた。

幌別郡の支配については、東海林栄蔵の掘立小屋を草囲いし開拓役所と集議所に仕立てたが、これが登別の役所の前身で、組織も庶務(学事・戸籍・郡民の願い届け)開墾(監察・刑事など)会計・病院係など設置し執務規則も決めるなど計画は綿密であった。

移住者の住居は、お長屋と呼ぶ草ぶき長屋の共同生活。家族間の仕切りは簾一枚なので笑えぬ悲喜劇もあったらしい。しかし彼らの結束は強く、室蘭に通ずる道路の開削は札幌本道の基本となる偉業を果たし、農事規約による農業開拓鶯別村ベシボツケ(輪西方面)に馬の放牧場をつくり永住の地と定め幌別・鶯別に墓地。旧領地の刈田峯神社の祭神を分霊した刈田神社の創建。幌別教育所の設置は、登別市教育の源で登別創業の基礎を築いた功績は大きい。

クリーンリーダーにご協力ください

市内の百町内会で組織する登録市衛生団体連合会は、地域の環境美化、ごみの減量、リサイクルなどの推進に努めています。が、なお一層の推進を図るため

リサイクルコーナー

各町内会五十世帯に一人の割合で現在約二百五十名の「クリーンリーダー」を設置しました。クリーンリーダーは、地域のごみの分別排出の徹底指導、ごみステーションの管理、ごみの減量、リサイクルの推進などに取り組むことになっていきます。



ご協力
お願いします



平成5年度 登別市クリーンリーダー会 総会

また、市環境衛生課（幸町清掃工場内）には、今年度から「清掃指導員」を二名配置し、各町内会の分別排出、ステーションの管理、リサイクル等の指導に努めています。

今後、各地域のクリーンリーダーとの連携を強め各事業を取り進めていきますので、皆様のご協力をよろしく願います。

▽問い合わせ 環境衛生課
(☎)2958

環境にやさしい生活 ③

このコーナーは、環境問題について「家庭でできる工夫」を二か月にわたり特集してきました。今回は、市民会館で九月八日開催の「登録消費者大会」と、十月二十三日、二十四日開催の「消費生活展」に会場した主婦二百八十一名を対象として行った、アンケート調査の結果についてお知らせします。

消費者コーナー



Q 台所排水は？

・ネットなどを使い、こして流している	78.7%
・そのまま流す	11.7%
・その他	9.6%

Q 使用済みの食用油は？

・ゴミとして出す	54.1%
・使い切る	30.6%
・そのまま流す	2.1%
・石けんをつくる	13.2%

Q 汚れた食器は？

・紙などで拭いてから洗う	41.3%
・洗剤を使って洗い流す	54.4%
・そのまま洗う	2.5%
・その他	1.8%



アンケートの結果では、生活排水の汚れを出さぬよう八十割以上の方が何らかの工夫をしているようです。しかし、二十割の人が無意識のうち環境を汚染している結果が出ています。

来場した主婦の方からは、次のような意見が聞かれました。
・洗剤を使い過ぎない事、油やみそ汁、煮物の汁も作り過ぎ

ないように気をつける。
・小さな事でも一人ひとりが気を付け毎日の積み重ねが大事。
・生活排水による環境の汚染を各戸が自覚して、次代へきれいな地球を引き継ぐよう努力する。

登録消費者協会は、市民の皆さんに「環境に優しい生活」を続けてもらうため、今後も積極的に活動を続けていきます。

▽問い合わせ 登録消費者協会
(☎)8307

まちかどぶらり



車止め

あおぞら公園 新生町

公園内に車の乗り入れを防ぐためのものです。鉄製やステンレス製の柵が一般的ですが、十月末に完成したあおぞら公園には、コンクリートでできた彫刻風の車止めを使用しています。

表紙のことば

昨シーズン施設をリフレッシュしたサンライバスキー場。今年は、人工降雪機を導入して夜通し人工雪を吹きつけ、去年より早い12月4日オープン予定です。

ひとの動き

■人口 57,060人
(前月比 +144)

■世帯 20,691世帯
(前月比 + 76)

平成5年10月末日現在

発行

登別市役所

総務部総務課広聴広報係

☎0143⑧1130

〒059

北海道登別市中央町6-11

目の不自由な人たちのために、「広報のほりべつ」の朗読を十六年間続けている、登別市朗読ボランティアの会会長川仁菊子さんが、厚生大臣表彰を受賞しました。川仁さんは中富良野町出身。関節炎を患ったことで、「温泉があり雪の少ない登別温泉へ」と昭和十八年に治療のため転居。障害者福祉団体の会員になり、障害者団体の会合で、目の不自由な人から「市の広報をテープに吹き込んでくれる人はいないだろうか」と相談され、小さいころから本を読むのが好き



川仁菊子さん(73歳)
中登別町在住

おめでと 厚生大臣表彰



例会に出席の「朗読ボランティアの会」の皆さん。広報の録音は、各々自宅で行っています。

だった川仁さんは、「それじゃ、私が」と、昭和五十二年から一人で始めました。以来、お知らせ版を含め月二回発行の広報紙を隅から隅までテープに録音。昭和六十一年に新たな仲間十人と朗読ボランティアの会を結成し、会長に。現在、広報の朗読は会員が交代で行っており、「元気なうちは頑張ります。年の割りには声が若いと言われていますが、味がでるにはまだまだ」と謙虚に、そして笑顔で語ってくれました。

国民健康保険移動納税相談日追加 新生町地区は、
12月12日(日)10:00~20:00若草つどいセンターで行います。